

令和2年度大館曲げわっぱ150年の森育成事業（大館市主催）

開催日：令和2年7月16日（木）

開催場所：秋田県大館市岩瀬字内町口（大館市有林）

大館市山瀬ダム近くの民有林（市有林）において、早口小学校と山瀬小学校6年生の児童と先生、大館市関係者、大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員、米代東部森林管理署・上小阿仁支署職員でスギ人工林の下刈作業を実施するとともに、作業後は仲谷大館市地域林政アドバイザーが講師となり森林教室を行いました。

主催者となる大館市林政課長ならびに米代東部森林管理署長から挨拶のあと、市職員から児童たちへ道具の使い方を説明。剪定ばさみを使って育成するスギの生長の邪魔となる雑草や雑木を刈り払いました。当日は曇りで気温もあまり上がらなかったこともあり、約30分の作業を無事に終えることができました。

また、森林教室では、木は身近なものに使われていて生活に欠かせないもの、大館樹海ドームは日本一の木造建築物、秋田スギは古くから使われてきた木材、日本三大美林にも数えられる秋田スギは豊臣秀吉も城の建築に取り寄せていた、木を切ることは成長するうえで必要なこと、などを児童に伝えていました。

地域の伝統工芸品「大館曲げわっぱ」の材料となる天然秋田スギは供給を停止していることから、平成30年度に大館市有林で始まった「大館曲げわっぱ150年の森育成事業」は代替材を育成するとともに、地元の小学生に伝統文化と森林環境保全の大切さを知ってもらう、ふるさとキャリア教育の一環としても位置づけられています。

今回の下刈体験と森林教室をとおり、木を育てることの大切さや林業に携わる人の大変さ、また森林のありがたみを、少しでも感じてもらえたらと思います。

